

「社会疫学と老年学における国際共同研究の可能性」

“Potentials of international collaborative research in social epidemiology and gerontology”

日本福祉大学健康社会研究センター(Center for Well-being and Society, CWS)は、介護予防のポピュレーション戦略の開発に向けて、ソーシャル・キャピタルなど「健康の社会的決定要因」に着目した J-AGES (Japan Gerontological Evaluation Study, 日本老年学的評価研究) プロジェクトに取り組んでいます。2010 年度調査では、全国の 27 自治体に暮らす約 8 万人の高齢者にご協力いただきました。

一方、スウェーデンでも SNAC (The Swedish National Study on Ageing and Care, 加齢と高齢者ケアに関する全国調査) がストックホルム老年学研究センター (Stockholm Gerontology Research Center) によって取り組まれています。

海外から見ると「日本はソーシャル・キャピタルが豊かな社会」と言われていますが、日本社会に暮らす我々には、まるで空気のように、その存在は感じられません。国内での比較だけでは、全体的に豊かであるために差が小さく、検出力が不十分である可能性があります。そこで共通項目を多く持つ J-AGES と SNAC の国際共同研究を構想したところ、長寿科学総合研究推進事業(国際共同研究事業)に採択され、共同研究プロジェクトが立ち上がりました。地域・社会環境の大きく異なる 2 カ国の地域間比較をすることで、国内での比較研究だけでは得がたい知見が期待されます。

健康社会研究センターが研究協定を結んでいるハーバード大学公衆衛生大学院から Subramanian 教授もお招きして、SNAC の主任研究者である Dr. Mårten Lagergren と共に社会疫学と老年学における国際共同研究の可能性について論議します。

2012年1月8日(日) 10:20~16:30

日本福祉大学名古屋キャンパス 7 階

言語: 英語(日本語抄訳のみ)

❖ 「国際比較研究から何を学べるか」

“What can we learn from international cross-comparative research?”

S V Subramanian (ハーバード大学公衆衛生大学院 教授)

❖ 「SNAC の概要と日瑞比較研究の可能性」

“Overview of SNAC and potentials of Japan-Sweden comparative study”

訓覇法子 (日本福祉大学 教授)

Mårten Lagergren (Stockholm Gerontology Research Center, Associate Professor)

❖ 「JAGES—柏市調査の概要と日瑞比較研究の可能性」

“JAGES—Overview of the study in Kashiwa-city and potentials of Japan-Sweden comparative study”

羽田 明 (千葉大学大学院医学研究院 教授)

本シンポジウムの開催には、公益財団法人 長寿科学振興財団の長寿科学総合研究推進事業(国際共同研究事業)並びに厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業)「介護保険の総合的政策評価ベンチマーク・システムの開発」(H22-長寿-指定-008), 並びに日本福祉大学国際学術交流(研究者短期招聘)事業の助成を受けています。

【連絡・申込先】

日本福祉大学健康社会研究センター

Tel: 052-242-3074 Fax: 052-242-3076

k-manami@n-fukushi.ac.jp (担当: 泉)